

しおんだより VOL.64



京畿道薬剤師会の方々が見学にこられました

2月4日に、韓国・京畿道薬剤師会の先生方が、当院に見学に来られました。韓国も高齢化が進み、在宅医療や地域医療における連携が求められているそうですが、その先進例として大阪と神奈川の薬局や医療機関を見学に来られました。

韓国の薬剤師さんに

とっても、当院の薬剤師業務のあり方は興味深いものだと思います。

当日は、朝5時前に起きて8時の飛行機で関西国際空港に向かわれ、その後、当院には午後2時前にご到着。私から、私自身が考える医師と薬剤師の協働のあり方は、当院での取組についてスライドを用いてご説明したあと、当院の中を見学していただきました。

皆さん、薬局や病院で現場に立たれている薬剤師さんということもあり、熱心にメモをとられ、当院の岩西薬局長にも質問を沢山いただきました。薬剤師の仕事は、薬を渡すところで終わるのではなく、渡したあとまでフォローし、正しくのめているかどうか、効果はでているのかどうか、副作用はでていないのかどうかを判断し、必要に応じて医師にフィードバックすることが病院でも極めて重要になると考えてきました。

高齢者の方の医療は、薬物治療が基本になります。薬剤師が上記のような働き方をすれば、薬物治療の質は飛躍的に向上するという考え方は、韓国の薬剤師さん達にも伝わったと思います。当院の取組も、もっともっと深化させていきたいと感じました。

地域医療連携が重要になる時代が到来

1月のとある土曜日、大阪公立大学の阿倍野キャンパスで開催された脳卒中の地域医療連携を考える会に、当院のリハビリ科の初瀬技師長と田中先生とともに出席してきました。

看護学部の新しく綺麗な校舎が会場でした。会では、国立循環器病研究センターの先生から趣旨説明があったあと、大阪公立大学の先生の疾患や治療法に関する講義がありました。その後、地域で活動する開業医や、訪問看護ステーションの看護師、大学病院の医師や看護師が3つのテーブルに分かれて、地域医療連携の重要性を確認し、それをより効率的に進めるための課題をみんなでフリーに話しあいました。

皆さん初対面ということもあり、最初はちょっと緊張気味でしたが、2時間の会が終わるころには、それぞれの立場からの意見も沢山でて、勉強になりました。今後、地域医療連携の重要性はますます高まっていくと思います。当院も柔軟に対応できるようにしていきたいと思いました。



大阪公立大学医学部に隣接した校舎は本当に綺麗でした！



大阪天満宮の梅は、すでにちらほら咲き始めました。

少しずつ春が近づいてきますね…！

立春も過ぎて10日も過ぎると、さすがに春らしさを感じる日が出てきました。三寒四温とも言いますが、寒い日がある中で、少しずつ暖かい日が増えてくる…。そんな気候です。

このような気候の時期に街を歩いていると、いずれも昔の話になりましたが、大学受験のころや、国家試験のころを思い出します。

この試験をパスすれば、また新しい生活が始まり、新しいことに挑戦出来る。そんなことに思いを馳せながら、参考書を片手に勉強していました。あのころの自分の真面目さやがんばりを思い出すと、もう30年以上も経過はしましたが、より良い病院にしていくなためにがんばらなくちゃいけないな、という気持ちにさせられます。（文責：狭間研至）

しおんだより 第64号 発行日：令和8年2月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp